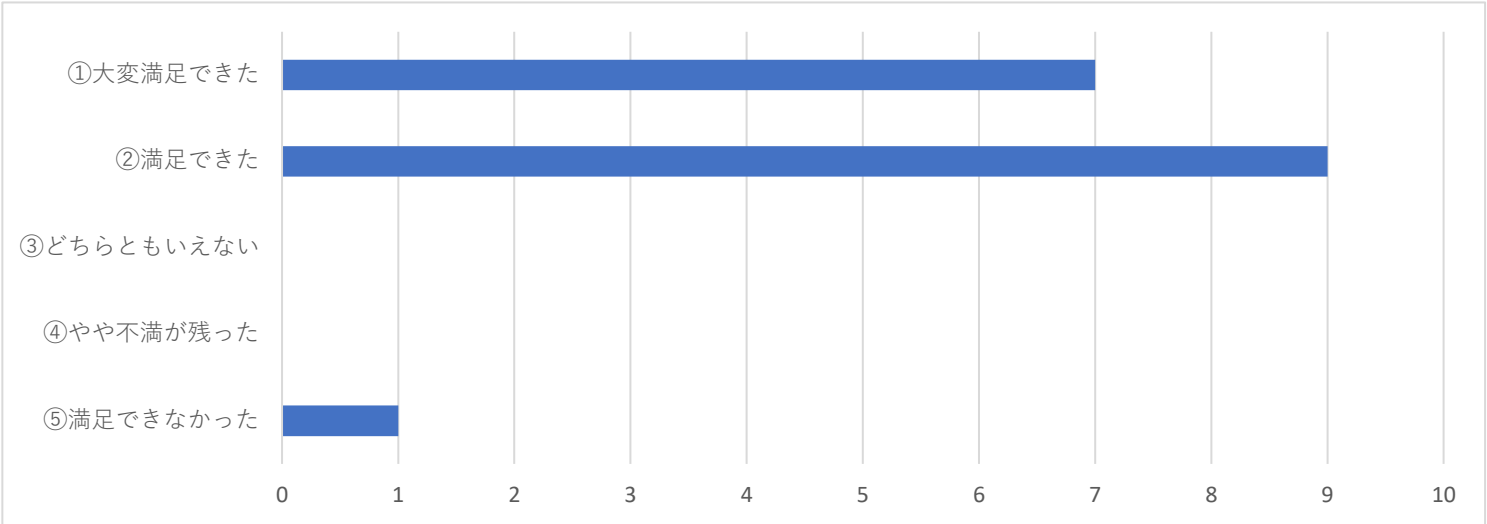


令和6年度 能登半島地震復興支援セミナー 第9回 アンケート

【日時】 令和6年11月13日(水) 14:00～15:00
【開催】 オンライン・オンデマンド
【タイトル】 令和 6 年能登半島地震における建築被害の特徴とこれからの防災まちづくり
【講師】 山中 新太郎
日本大学理工学部建築学科教授
日本大学災害研究ソサイエティ (NUDS) メンバー

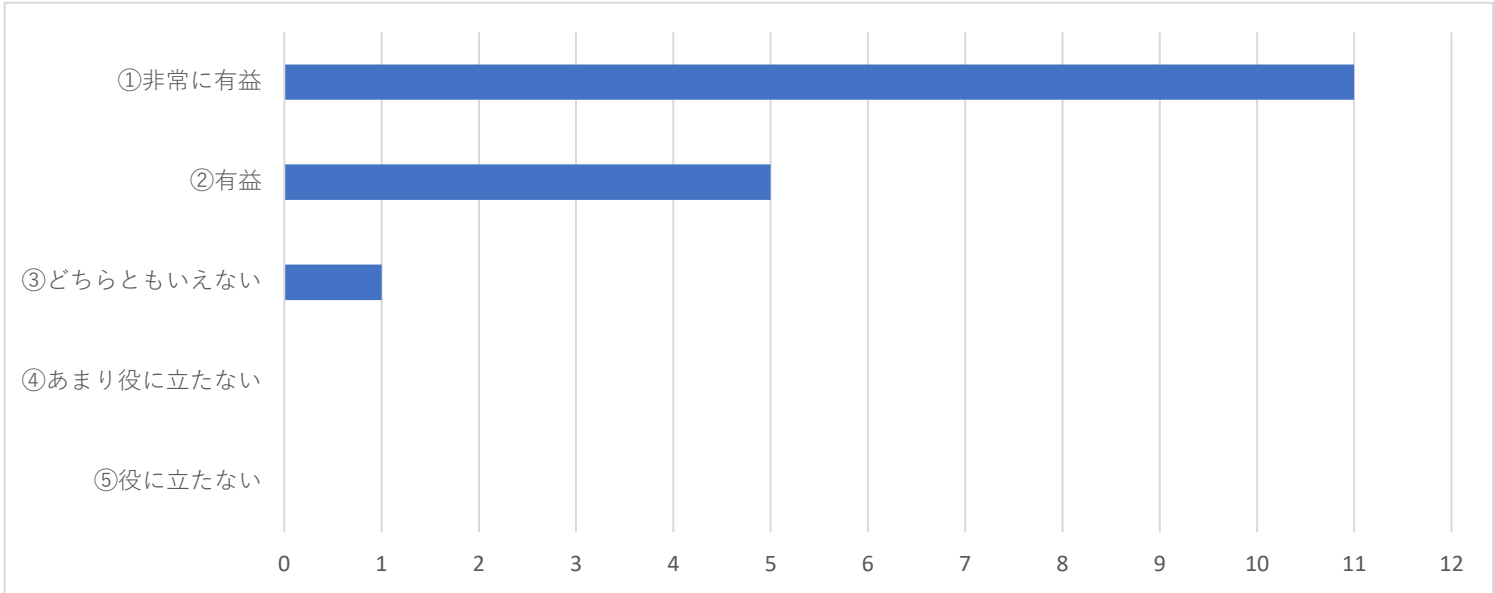
1.講演はいかがでしたか。



2.設問1の回答について、よろしければ、その理由を具体的にお書きください。

- ・ぼんやりと感じていたことを言葉ではっきり言ってくださったと思いました。『数年後には、来訪者が激減している。』『高すぎる目標設定は、疲弊する。』『集落内に仮設・復興住宅がないと、集落は消滅に向かう』などの話です。
- ・過去の震災におけるまちづくりについて参考になった。
- ・講師の方の、東日本大震災の復興支援からくる具体的な事例、知見、提言を学ぶことができたため
- ・今まさにコミュニティの存続を話し合っ今後の生活再建を考えなければならないため。
- ・多様なコミュニティを集団移転するには多様なままで実施する必要があるというのは、本質から理解できる。しかし、行政的な画一的集団移転では限界があると思う。元々限界集落だった地域を集団移転で復興することには無理があり、集団移転は別の方向性で実施する方が良い結果になると思う。限界集落の復興・集団移転の経験は限界集落の整理統合や地域再生に役立つかもしれない。
- ・これからの防災まちづくりについて講演の方の経験による、能登の地形を活かしたまちづくり案について聞かせていただけるのかと思い聴講したので残念でした。
- ・被災地の復興は、被災者の意見を聞き、オーダーメイド型で行った方が望ましいこと

3.被災地の現状を知るため又は復興のために役立つものでしたか。



講演内容やセミナー運営等で、良かった点、不満足な点、感想、お気づきになった点などございましたら、ぜひお書きください。

- ・スライド画面が小さくて見えにくかったです。比率を変えるか全表示にして頂きたいです。大学の方々の活動を教えて頂き参考になりました。
- ・今後もセミナーを継続してほしい。自治体にもぜひ参加してもらい、もともにもどすことにこだわらない夢のある復興をめざしていきたい。我慢が諦めに進むと能登から人がいなくなってしまう。
- ・山中先生のお話がとても聞きやすかったです。
- ・大変参考になりました。運営、ご準備などありがとうございます。
- ・輪島市、珠洲市に何度か通い、これからの復旧復興を心配していましたが、今回先生の宮城でのお話を伺い、とても希望が持てました。お忙しい中ありがとうございます。陸前高田市にもずっと通っていますが、長い目で見て寄り添うことが大事と感じています。能登には能登のみなさんの気持ちがあると思いますし、先生がおっしゃるようにまずは生業を確立し健康に暮らせるように、できる限りの応援をしていきたいですね。とても良いお話を聴かせていただきありがとうございました。